

ウィークリー・アウトルック

レイバーデー

【今週のポイント】

- ・米雇用統計は労働市場に関する懸念を強めるか
- ・9月2日のレイバーデーが明けると米大統領選挙戦は最終ストレッチ
- ・総裁会見でBOCの追加利下げ時期の手掛かりが提供されるか

8月23日ジャクソンホールでの公演で、パウエルFRB議長は「政策調整の時は来た」と述べ、9月17-18日のFOMCでの利下げを事実上「予告」しました。市場では利下げ幅0.25%が有力視されていますが、0.50%はないのか。さらに9月以降の利下げペースはどうなるか。FRBは労働市場の悪化を懸念しているため、5日の先週分の新規失業保険申請件数や6日の8月雇用統計が大いに注目されます(+5日のADP雇用統計も!?)。

労働市場の悪化が示唆されれば、利下げ観測の高まりは株価にプラスになりそうです。ただし、労働市場、ひいては景気が急速に悪化しているとの見方につながれば、株価にとってマイナスであり、為替市場でもリスクオフの動きが強まるかもしれません。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
9月2日		【米】【カナダ】祝日(レイバーデー)			
	10:45	【中】財新製造業PMI(8月)	実績50.4		49.8
9月3日	16:00	【トルコ】CPI 前年比(8月)	51.80%	51.90%	61.78%
	18:30	【南アフリカ】GDP 前年比(4-6月期)	0.3%	0.3%	0.5%
	23:00	【米】ISM製造業景況指数(8月)	47.0	47.5	46.8
9月4日	10:30	【豪】GDP 前期比(4-6月期)	0.3%	0.2%	0.1%
	22:45	【カナダ】BOC政策金利	4.25%	4.25%	4.50%
	23:30	【カナダ】マックレムBOC総裁の記者会見			
	27:00	【米】ページブック(地区連銀経済報告)			
9月5日	23:00	【米】ISM非製造業景況指数(8月)	51.0	51.1	51.4
9月6日	21:30	【米】非農業部門雇用者数 前月比(8月)	15.0万人	16.5万人	11.4万人
		【米】失業率(8月)	4.2%	4.2%	4.3%
	21:30	【カナダ】雇用者数 前月比(8月)	2.30万人	2.50万人	-0.28万人
		【カナダ】失業率(8月)	6.5%	6.5%	6.4%

市場予想はBloomberg、9月2日9:00現在。発表日時は日本時間。

毎年 9 月第 1 月曜日は米国のレイバーデーで祝日。「労働者の日」とされるこの日が明けた火曜日（今年は 2 日）から大統領選挙戦が最後のストレッチに入ります。大統領選挙の投票日は 11 月の第 1 月曜日の翌火曜日（2 日～8 日のいずれか。今年は 5 日）に決まっているので、残り丸 2 カ月の勝負となります。

最新の RealClearPolitics の集計によれば、接戦のペンシルベニア州での支持率で、ハリス氏がトランプ氏を逆転しました。仮にきょう投票が行われたら、ハリス氏が勝利に必要な選挙人の過半数（270 人以上）を獲得するとの試算も可能です。

もっとも、大統領選は最後まで予測困難な状況が続くかもしれません。10 日の TV 討論会等を経て市場では為替相場に関する思惑が錯綜しそうです。＜西田＞

今週は、雇用統計など米国の経済指標が多く発表されます。米経済指標の結果を受けて米 FRB の大幅な利下げ観測が後退する場合、米ドルが全般的に堅調に推移して、豪ドル/米ドルや NZ ドル/米ドルには下押し圧力が加わりそうです。

米ドル/カナダドルについては、4 日の BOC（カナダ中銀）の政策会合にも注目です。BOC は利下げを行うとみられ、注目点は総裁会見で追加利下げの時期についての手掛かりが示されるかどうかです。

メキシコペソについては、司法制度改革をめぐるメキシコ議会の動きに注意が必要です。司法制度改革によって司法の独立性が脅かされると市場は懸念しており、それが足もとのメキシコペソ軟調の主な要因となっています。司法制度改革案は 9 月 1 日に開会した議会で最終審議が行われるとみられます。司法制度改革案が成立に向けて一段と前進する場合、メキシコペソが下押しする可能性があります。

主要国の株価動向も材料になるかもしれません。8 月 30 日の米株式市場ではダウが史上最高値をつけました。米国など主要国の株価が上昇を続ければ、リスクオン（リスク選好）の動きが強まるとともに、クロス円が堅調に推移する可能性があります。＜八代＞

今週の注目通貨ペア①: ＜米ドル/円 予想レンジ: 141.500 円～150.000 円＞

9 月 1 日時点の CME（シカゴ・マーカンタイル取引所）の FedWatch によれば、市場は 9 月 17-18 日の FOMC での利下げを 100% 織り込んでいます。利下げ幅の予想は 0.25% が 67%、0.50% が 33% です。6 日の 8 月雇用統計によって利下げ幅の予想がどう変化するか。労働市場の悪化が懸念されれば、0.50% 利下げ観測が高まり、米ドルの重石になりそうです。

8 月 30 日時点の OIS（翌日物金利スワップ）に基づけば、市場は 24 年中に計 0.957% の利下げを織り込んでいます。3 回の FOMC で 0.25% × 4 回分の利下げをほぼ織り込んだ形。つまり、いずれか 1 回は 0.50% 幅になるとの見方が有力です。また、市場は 25 年 7 月までの 8 回の FOMC で 1.964%（＝0.25% × 8 回）の利下げを織り込んでいます。

8月30日時点のアトランタ連銀のGDPNow(短期予測モデル)によれば、今年7-9月期のGDPは前期比年率2.5%と堅調が予想されています。PCE(個人消費支出)が同3.8%伸び、GDPを2.6%分押し上げる(=寄与度2.6%)との計算です。今後、景気が大幅に鈍化して、市場が織り込むFRBのアグレッシブな利下げが正当化されるのか。それとも、景気が底堅さを維持することで、市場の観測が修正されるのか。後者の場合は、長期金利の上昇などを伴って米ドル/円の上昇要因となりそうです。〈西田〉

今週の注目通貨ペア②: <豪ドル/NZドル 予想レンジ:1.08000NZドル~1.09500NZドル>

豪ドル/NZドルは8月16日に一時1.10515NZドルへ上昇した後に反落し、同29日には1.07968NZドルへと下落する場面がありました。

RBA(豪中銀)とRBNZ(NZ中銀)の金融政策面からみれば、豪ドル/NZドルには上昇圧力が加わりやすいと考えられます。それにもかかわらず、豪ドル/NZドルが反落した主な要因としては、(1)豪ドル/米ドルとNZドル/米ドルの変動幅の差、(2)NZの企業信頼感指数(8/29発表)の改善が挙げられます。

(1)豪ドル/NZドルの為替レートは“豪ドル/米ドル÷NZドル/米ドル”で算出されます。市場の関心が米FRBの金融政策へと向かう中で米FRBの利下げ観測から米ドルが全般的に軟調に推移しました。豪ドルとNZドルのいずれも対米ドルで堅調に推移したものの、NZドル/米ドルの上昇幅の方が大きかったことが、豪ドル/NZドルを下押ししたと考えられます。(2)NZの8月企業景況感指数は50.6と、7月の27.1から上昇し、およそ10年ぶりの高い水準となりました。

今週は豪州の4-6月期GDP(国内総生産。4日発表)やブロックRBA総裁の講演(5日)が、豪ドル/NZドルの材料になりそうです。GDPが市場予想の前期比0.2%を上回る結果になるなどしてRBAの利下げ観測が後退する場合、豪ドル/NZドルは反発する可能性があります。〈八代〉

今週の注目通貨ペア③: <米ドル/カナダドル 予想レンジ:1.34000カナダドル~1.36000カナダドル>

今週の米ドル/カナダドルは、BOC(カナダ中銀)政策会合(4日)や米国の経済指標が材料になりそうです。

BOC会合については、3会合連続で利下げすることが決定されそう。利下げ幅は6月と7月と同じく0.25%になると考えられます。その通りの結果になれば、BOCの声明や会合後に行われるマックレム総裁の会見に注目です。市場では10月と12月の会合でも利下げが行われるとの観測があります(11月は会合なし)。声明や総裁会見がその観測を補強する内容になれば、カナダドル安材料になりそうです。

それに加えて、米国の雇用統計(6日)などを受けて9月17-18日の米FOMCにおける0.50%の利下げ観測が後退する場合(米ドルにとってプラス)、米ドル/カナダドルは200日移動平均線(2日時点で1.35856カナダドル)に向かって上昇しそうです。〈八代〉

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘（にしだ あきひろ）

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也（やしろ かずや）

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
